

学長の業務執行状況の確認について

学長選考・監察会議は、国立大学法人筑波技術大学学長選考・監察会議規則第4条第1項第4号の規定に基づき、石原保志学長の令和3年度における業務執行状況（以下、「業務執行状況」という。）の確認を行ったので、その結果を公表する。

記

1 確認の経過

(1) 第44回学長選考・監察会議（令和4年10月20日）

業務執行状況について、石原保志学長に対し、学長再任時の所信表明の内容等に照らし、次の取組（①～③）についてヒアリングを行った。

- ① 学長のリーダーシップによるガバナンス強化への取組
- ② 教育・研究・財務状況改善への取組
- ③ 本学の特色・強み・弱みを踏まえた機能強化への取組

また、ヒアリング終了後、次の資料（ア～エ）を参考にして聴取した具体的な取組内容に基づき、業務執行状況の確認のための討議を行った。

- ア 令和3事業年度に係る業務実績に関する報告書
- イ 所信表明書
- ウ 学長の業務執行状況に関する監事の所見
- エ 石原学長から提出のあった主な取組実績に係る概要資料

2 確認結果

(1) 第4期中期目標・中期計画の策定に関する取組

第4期中期目標・中期計画の作成にあたっては、本学が目指すべき方向性を明確に示すとともに、複数回にわたって教職員向けに説明会を開催し共通認識の浸透に努める等、強いリーダーシップをもってとりまとめた。特に、中期目標のⅠ教育研究の質の向上に関する事項においては、障害者が能力を發揮できる場の構築を目指し、「社会との共創」という本学独自の目標

を立てたことが高く評価できる。

(2) 学部・学科、研究科の専攻等の定員未充足等の状況に関する取組

令和2年度から設置した新たな学位プログラムの検討に向けたプロジェクトチームにおいて、教育課程のコンセプト、養成する人材像、具体的なカリキュラム等について検討する等、設置に向けた準備を加速させた。進捗状況は、教育研究評議会及び経営協議会、学内教職員説明会において随時報告し、意見交換の結果を反映させている。

また、上記の新学位プログラムの検討と並行して既存の学科においてカリキュラムの抜本的改善の検討、オンラインシンポジウムの実施、出前授業の拡大、入試スケジュールの見直し等を行った。

(3) 教育研究等の質の向上に関する取組

聴覚障害学生に向けた学修支援として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるオンライン授業が増加したことを受け、遠隔情報保障システムの改良、開発を行った。視覚障害学生に対しては、学生の読書速度及び読書に適切な文字サイズを測定し、その結果を授業資料の準備や実技の技術指導に役立てるとともに、臨床実習を受け入れている外部医療施設の指導者に自らの障害を理解説明するために活用した。

文部科学省の令和2年度第三次補正事業である、「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業（就職・転職支援のためのリカレント教育プログラムの開発・実施）」においては、2つのプログラムが採択され、聴覚障害及び視覚障害に特化したプログラムを実施し、両プログラム合わせて39名の受講者の円滑な就職・転職を促すことができた。

科学研究費補助金獲得を推進し、本学研究者が研究代表者である科学研究費補助金については、第2期中期目標期間における年度平均46件に対して15%増となり、中期計画に定める目標を上回る実績となった。

(4) 業務運営・財務内容等に関する取組

全学的な人事マネジメントを推進するため、新たに全学共通の指針となる「筑波技術大学人事基本方針」を令和3年9月に策定するとともに、学長のリーダーシップの下、本学の将来構想や各組織の課題に関するヒアリング、財務状況を踏まえ、今後3年間の各組織の人員計画を作成し、計画的・戦略的な人員配置を実施した。また、会議体(室・委員会)の系統化と省力化の為、法人化以降初めての大規模統廃合を行い、機能を維持しつつ、委員の数を削減するとともに、各会議体での審議状況が部局長会議に集約されるよう、体制を見直した。

令和3年度障害学生支援大学長連絡会議では、構成員大学以外にも参加を呼びかけ、これまでで最多となる国公立大学66校が参加した。会議では「障害学生支援に関する現状と展望」と題し、各校と積極的に意見交換を行い、障害者のための大学である本学の存在感を十分に発揮できた。

3 総括

以上のことから石原学長は、コロナ禍での対応を含め、学長として優れた対話・傾聴力をもちつつ、強いリーダーシップを発揮して、組織運営を始め教育研究の改善及び大学改革の推進に努めていることから、全体として適切に業務を執行していると判断した。

最大の課題である学生未充足については、その基本的要因となっている保健科学部の教育研究体制の抜本的改革を早急に進める必要があり、当面その具体的第一歩たる新プログラムの早期実現を強力に推進することを期待する。あわせて既存学科のカリキュラムの抜本改善を進め、また、一般高校に在籍する生徒への広報活動を強化するとともに、医療センターを活用した教育や、リカレント分野を活性化させる等、本学にしかない魅力を訴求する方策の検討を期待する。

以上